

■ 徳島県内の木材生産状況の情報整理【平成23年度】

	植栽・保育	伐採・搬出	製材	乾燥	仕上・プレカット加工	その他
概況	<ul style="list-style-type: none"> 主伐が少ないため新植面積は減少 植栽木のシカ被害が深刻化 人工林の過半が材として利用可能 森林の成長量は年間100万m3以上 	<ul style="list-style-type: none"> 今後5年間で人工林の過半が主伐期 県プロジェクトにより搬出間伐を推進 架線集材の技術は全国トップクラス 	<ul style="list-style-type: none"> 中小規模の工場がほとんどを占める（年間平均原木消費量2,400m3） 歴史的に板材の産地 構造材の製材工場は少ない ヒノキ製材は少ない 	<ul style="list-style-type: none"> もともと板材の天然乾燥が主流 人工乾燥機の導入は最近 ほとんどが蒸気式乾燥機 	<ul style="list-style-type: none"> プレナー等の仕上げ加工は工場・プレカット・現場と様々 住宅はプレカットが9割 	<ul style="list-style-type: none"> 国産材合板工場 1工場 集成材パネル工場 1工場 国産材MDF工場 1工場 三層ボード工場 1工場
量	<ul style="list-style-type: none"> 人工林の植栽面積 (H22)102ha <(S40)4,604ha> スギ蓄積量 4,470万m3（うち51年以上1,913万m3） ヒノキ蓄積 594万m3（うち51年以上が159万m3） 	<ul style="list-style-type: none"> 素材生産量 (H22) 20.6万m3 うち主伐 12.5万m3 間伐 8.1万m3 	<ul style="list-style-type: none"> 製材工場数 県内118工場 素材消費量 28.2万m3（うち県産材 12.7万m3） 製品出荷量 18.7万m3 板類が46%と大半を占める 	<ul style="list-style-type: none"> 人工乾燥機導入工場 30工場 25%以下の製材品出荷量(H21) 人工乾燥 4.6万m3 天然乾燥 5.9万m3 	<ul style="list-style-type: none"> プレカット工場 県内8工場 材料入荷量 5.6千m3/年 	<ul style="list-style-type: none"> 国産材合板工場 素材消費量 14.1万m3 うち県産材 6.4万m3 集成材パネル工場 素材消費量 3千m3
規格 寸法	<ul style="list-style-type: none"> 1ha当たりの植栽本数 従来3千本植えが近年2千本植えに 優良材生産のための枝打ち等は減少 	<ul style="list-style-type: none"> 素材の材長 3m以下[12%] 4m [85%] 5m以上[3%] 搬出間伐 フォワーダで最長6mまで可能 主伐 長さ1.2mまで運材可能（林道の幅員・カーブ径に制限される） 	<ul style="list-style-type: none"> 調達可能な県産材製材品の基本寸法 別紙【県産製材品の一般流通材】参照 節の規格 無節、上小節、小節 製材JAS取得工場 3工場 構造材目視等級区分の取得が11工場 	<ul style="list-style-type: none"> 人工乾燥機の規格 材長 最大9m 容量 50m3以上 13% 30~50m3 35% 20~30m3 30% 20m3未満 22% 	<ul style="list-style-type: none"> 仕上がり寸法 納品場所・条件の違いでミリ単位の指定が必要 プレカット全自動ライン 材長 6mまで 角材 15cm角まで 柱材 幅 15cmまで 梁成 45cmまで 	<ul style="list-style-type: none"> 構造用合板 厚12、24~28mm、910×1,820mm、1.0×2.0m 三層ボード(Jパネル) 厚36mm、910×1,820mm、1.0×2.0m
時期 時間	<ul style="list-style-type: none"> 保育作業 1~5年 下刈り 6~35年 除伐・切捨間伐 36~50年 搬出間伐 51年~ 主伐可能 	<ul style="list-style-type: none"> 製材用素材の伐採適期 8月盆明けから2月まで 葉枯らし乾燥の期間 山元で2~4ヶ月乾燥 長尺材・特殊材は納品まで期間が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 材長4mを超えるもの、断面の大きいものは納品まで期間が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 天然乾燥 構造材 6ヶ月以上 板材 3ヶ月以上 中温乾燥(〜100) 柱材 10~14日 横架材 2~3週間 高温乾燥(100〜) 柱材 5~6日 	<ul style="list-style-type: none"> プレカット工場生産能力 120~130坪/日(1社平均) プレカット工場納期 約1ヶ月 (発注-CAD-納品まで) 	
品質 性能 強度	<ul style="list-style-type: none"> 苗木の品質 県の採種圃から採取した種子を使用 徳島在来品種を使用 	<ul style="list-style-type: none"> 素材の樹種別比率 スギ70% ヒノキ20% マツ2% 広葉樹8% 生産性 搬出間伐は5m3/人日 主伐は8~10m3/人日 	<ul style="list-style-type: none"> 徳島すぎの品質 色つやが良く、比較的強度が高い 赤み 白太 源平 黒芯 赤身、白太、源平(赤白)、黒芯 徳島すぎ強度分布 E50 6% E70 39% E90 46% E110 9% 	<ul style="list-style-type: none"> 天然乾燥材の品質 色つや 香りは良いが表面割れ有り 高温乾燥材の品質 表面割れは無いが内部割れのリスク 色つや 香りは劣る 中温乾燥材の品質 天然と高温の中間 建築基準法の基準 無垢材では20%以下が要求される 	<ul style="list-style-type: none"> 寸法仕上げ プレナー モルダール 化粧仕上げ サンダー(研磨) かなな うずくり 側面加工 本実、目すかし、相じやくり、エンドマッチ 構造材以外にも、羽柄材・合板のプレカット加工も可能 	
コスト	<ul style="list-style-type: none"> 標準的なコスト 植林 80万円/ha シカ防護柵設置費 72万円/ha 下刈り 11万円/ha 枝打ち 23万円/ha 切捨間伐 11万円/ha 	<ul style="list-style-type: none"> 搬出間伐のコスト 平均的な事業費 52.8万円/ha(80m3生産) 主伐のコスト 7千円/m3(林野庁全国平均 運材費含む) 市場手数料 はい立て料1,000円/m3 手数料7% 平均原木価格(H22) スギ中目4m 13,792円 ヒノキ小径3m 15,042円 	<ul style="list-style-type: none"> 標準的な製材コスト(県内調査) 13,241円/製品m3あたり 製品/原木の歩留まりは平均66% 製材品の単価傾向 別紙資料参照 	<ul style="list-style-type: none"> 標準的な人工乾燥コスト 厚さ120mmまでの部材 1.0~1.2万円/m3 厚さが増すごとにコストも上がり 厚さ240mmで2.0~2.4万円/m3 天然乾燥のコスト 乾燥土場・倉庫の賃貸料 乾燥中の金利負担 	<ul style="list-style-type: none"> 県産材住宅のプレカットコスト 7,000円前後/坪 木造公共施設も同様 プレカットでのモルダール加工費 2,000円前後/坪 大工による手刻み加工コスト 2~3人工/坪 	
その他		<ul style="list-style-type: none"> 県内の原木市場は7市場 徳島市1 小松島市1 神山町1 上勝町1 那賀町1 美馬市1 三好市1 高知、愛媛等から11.7万m3が移入(H22) 	<ul style="list-style-type: none"> 徳島の製材業の特徴 消費地である京阪神に近く、需用の変化に迅速に対応して製品を変え、品質の向上に努めてきたので、今日の様に多くの中小規模工場が成り立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 木材は含水率30%以下になると含水率の低下に比例して強度が向上 減圧方式等新しい人工乾燥技術も 	<ul style="list-style-type: none"> 含浸・防腐処理加工 県内2工場 使用薬剤 タナリスCY マイトレックACQ 	